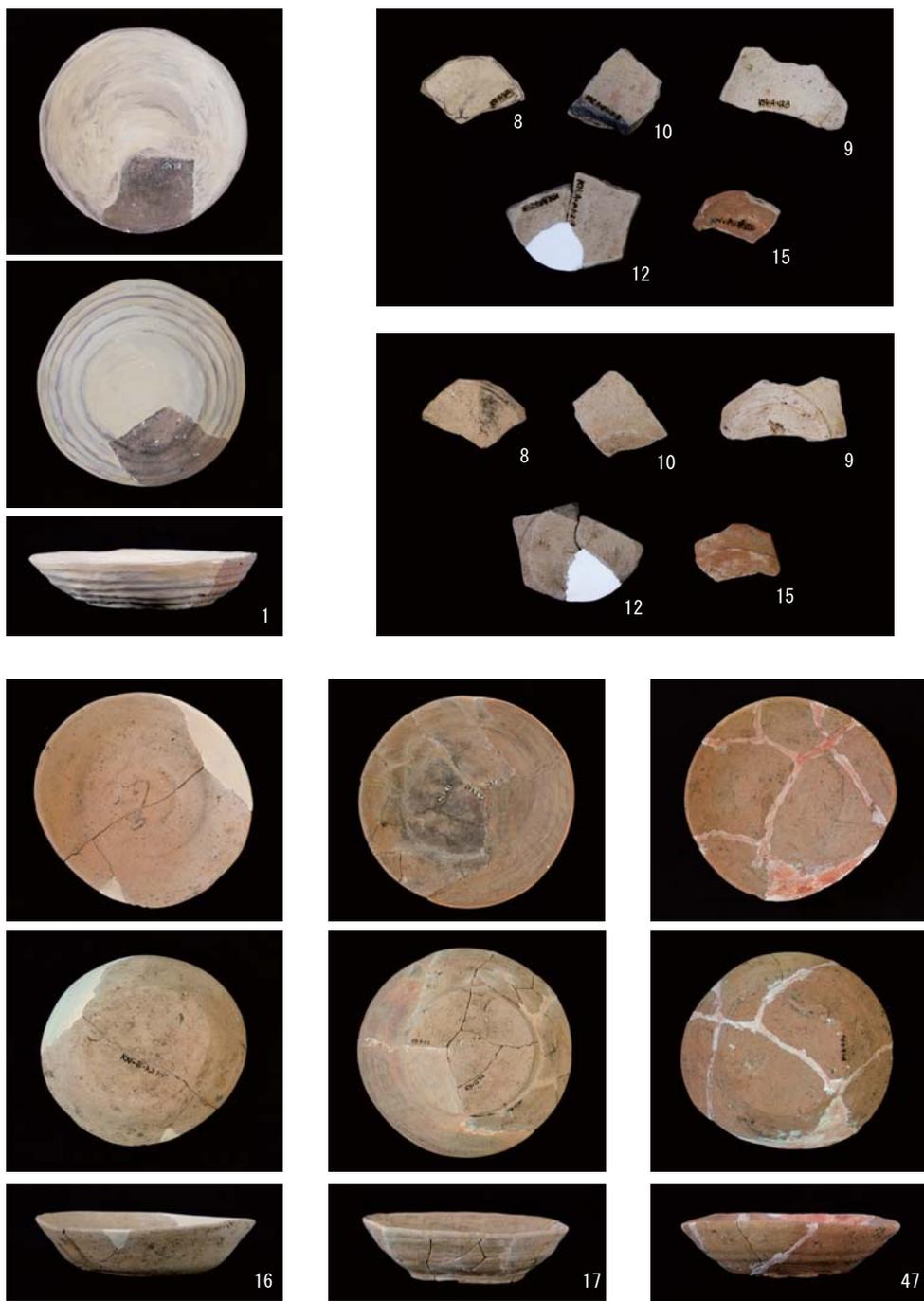


付写真1 広島大学東広島キャンパス出土の土師質土器坏・皿

例 言

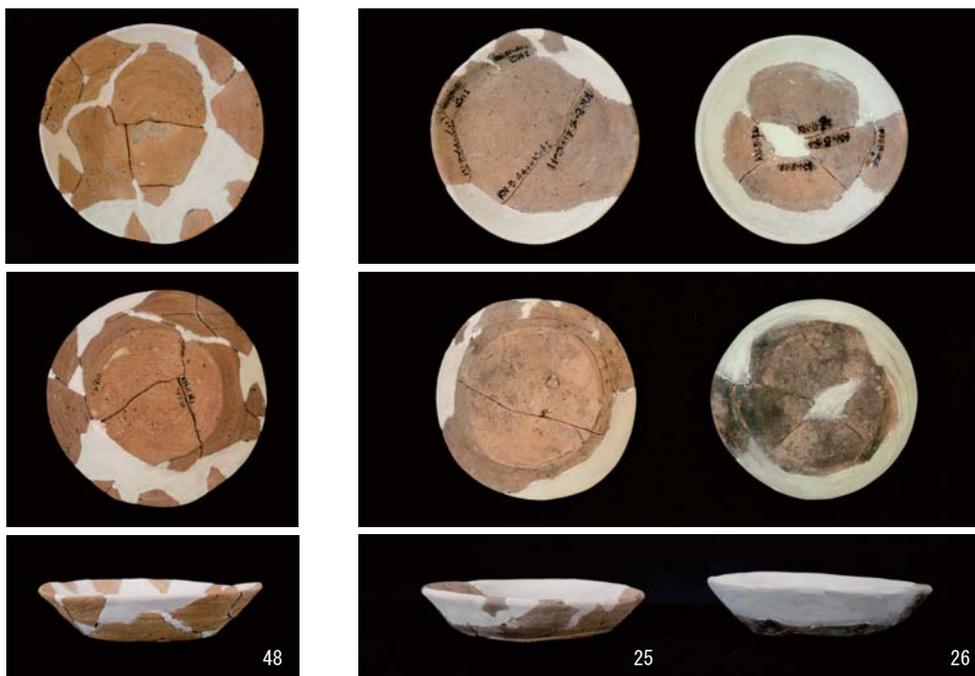
1. 本写真図版は、『調査研究紀要』第5号研究編に掲載した鏡西谷遺跡（A地区、B地区、C地区、D地区、G・E地区、F地区、H地区）、鏡東谷遺跡（北地区、南地区）、鏡千人遺跡、鏡遺跡群（第4地点、第7地点）、鏡山城跡ががら地区、清水奥山遺跡、山中池南遺跡第1地点・第2点、第6地点出土土師質土器坏・皿実測図の一部に対応した写真を収録している。また、本文に掲載されていない遺物を一部に収録している（417～421）。
2. 掲載した写真のうち、完形品および完形復元品写真の内面、外面、側面の3枚で構成している。配置は、上より内面、外面、側面の順である。集合写真は内面、外面の2枚で構成している。配置は上下、左右の2種類があり、前者は上から内面、外面、後者は左より内面、外面の順である。
3. 掲載した写真は本文掲載の挿図の順序に準じているが、配置の関係から、掲載遺跡の順序が一部前後している。
4. 写真中の番号は本文挿図中の番号に一致する。また、本文に収録していない資料については、本文挿図中の最後の番号（416）に続けて連番として付している。
5. 417～421は本文挿図に収録していない資料で、417～420は鏡西谷遺跡C地区S B 01出土皿、421は鏡西谷遺跡H地区S A 01出土坏である。
6. 掲載写真は完形品および完形復元品は番号順に配している。集合写真については可能な限り番号順を心がけたが、配置の関係から順不同になっている箇所も多い。
7. 本写真図版に収録した資料は遺物観察表にすべて収録している。
8. 本写真図版の写真撮影および図版作成は藤野次史が行った。
9. 本写真図版に収録した資料は広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門が保管している。

図版1 鏡西谷跡A地区・B地区出土の土師質土器杯・皿



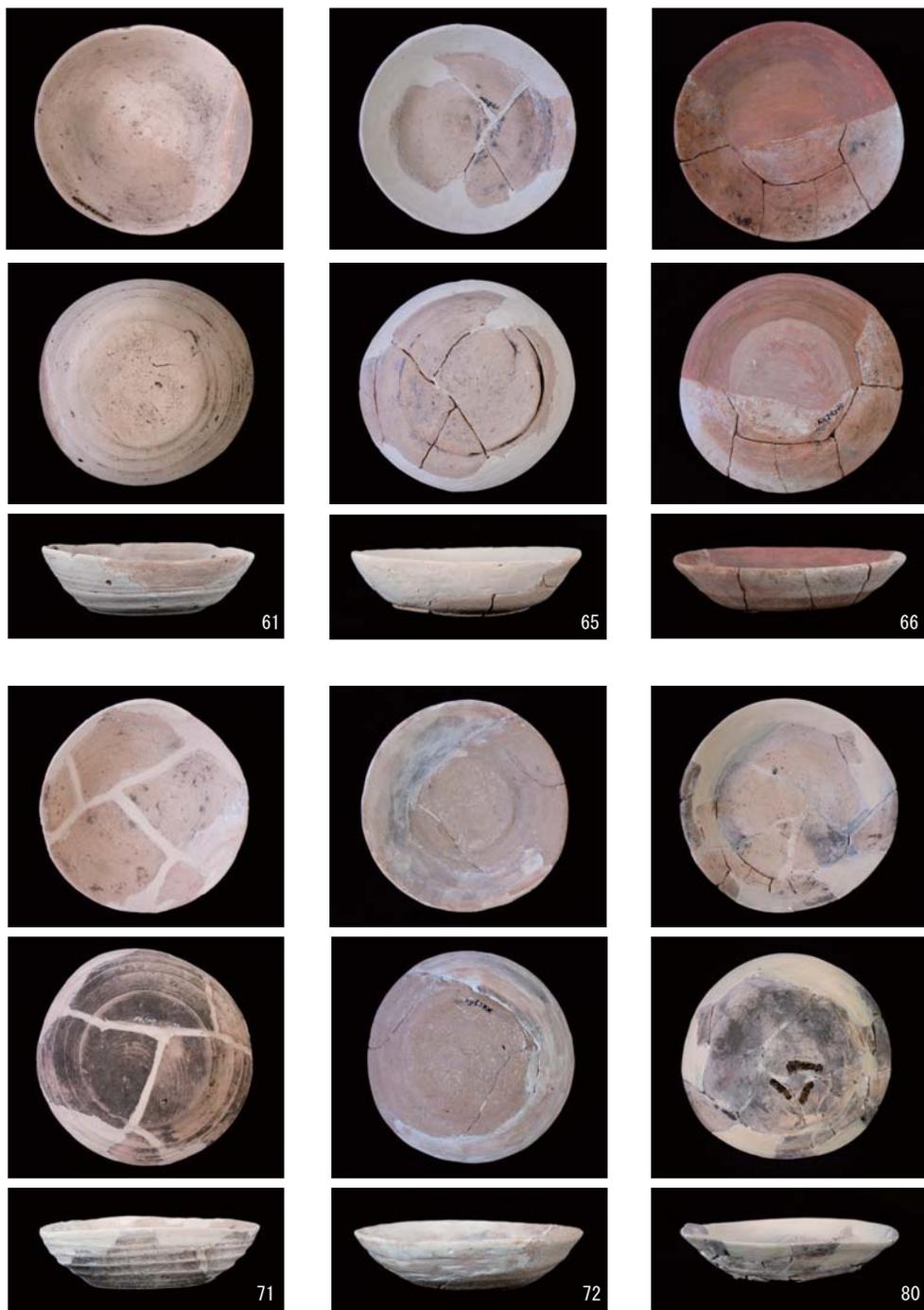
(1・8～10・12・15. A地区、16・17. S D 01 周辺、47. B地区S X 02 周辺)

図版2 鏡西谷跡B地区出土出土の土師質土器杯・皿

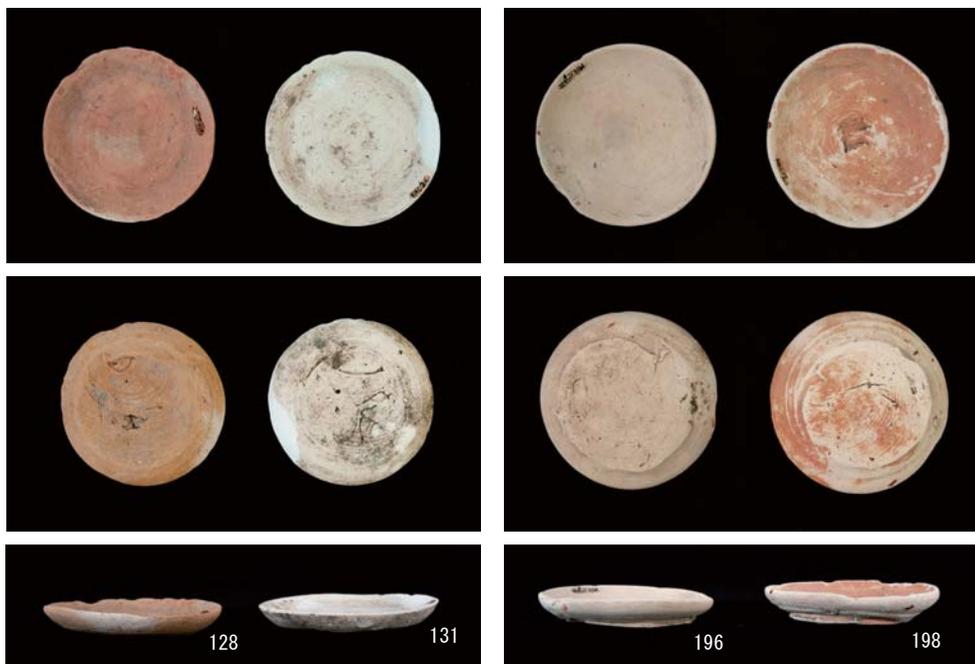
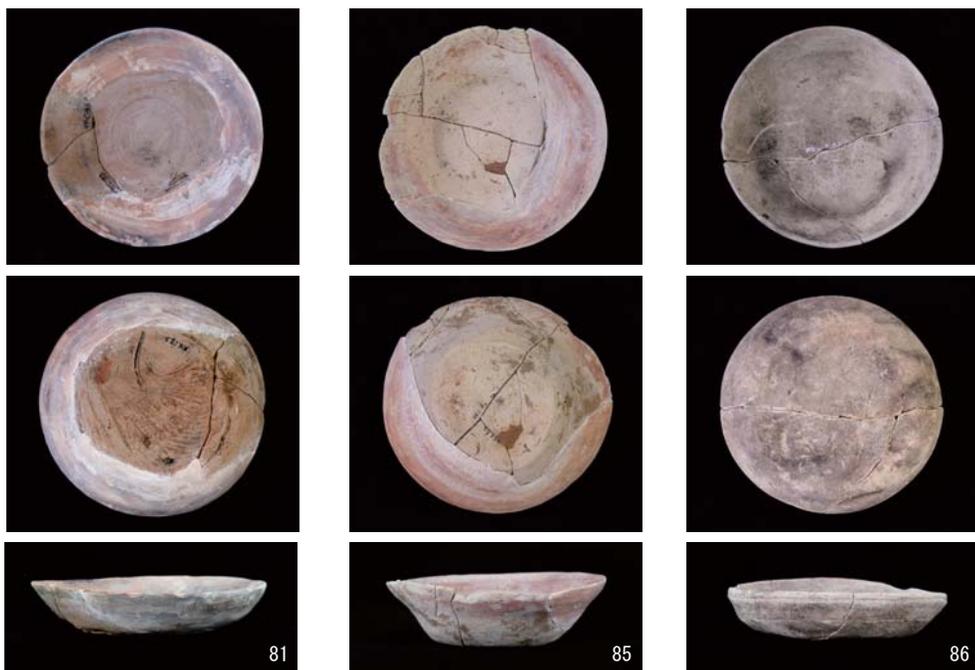


(25・26はS D 01 周辺、48・50・51はB地区 S X 02 周辺)

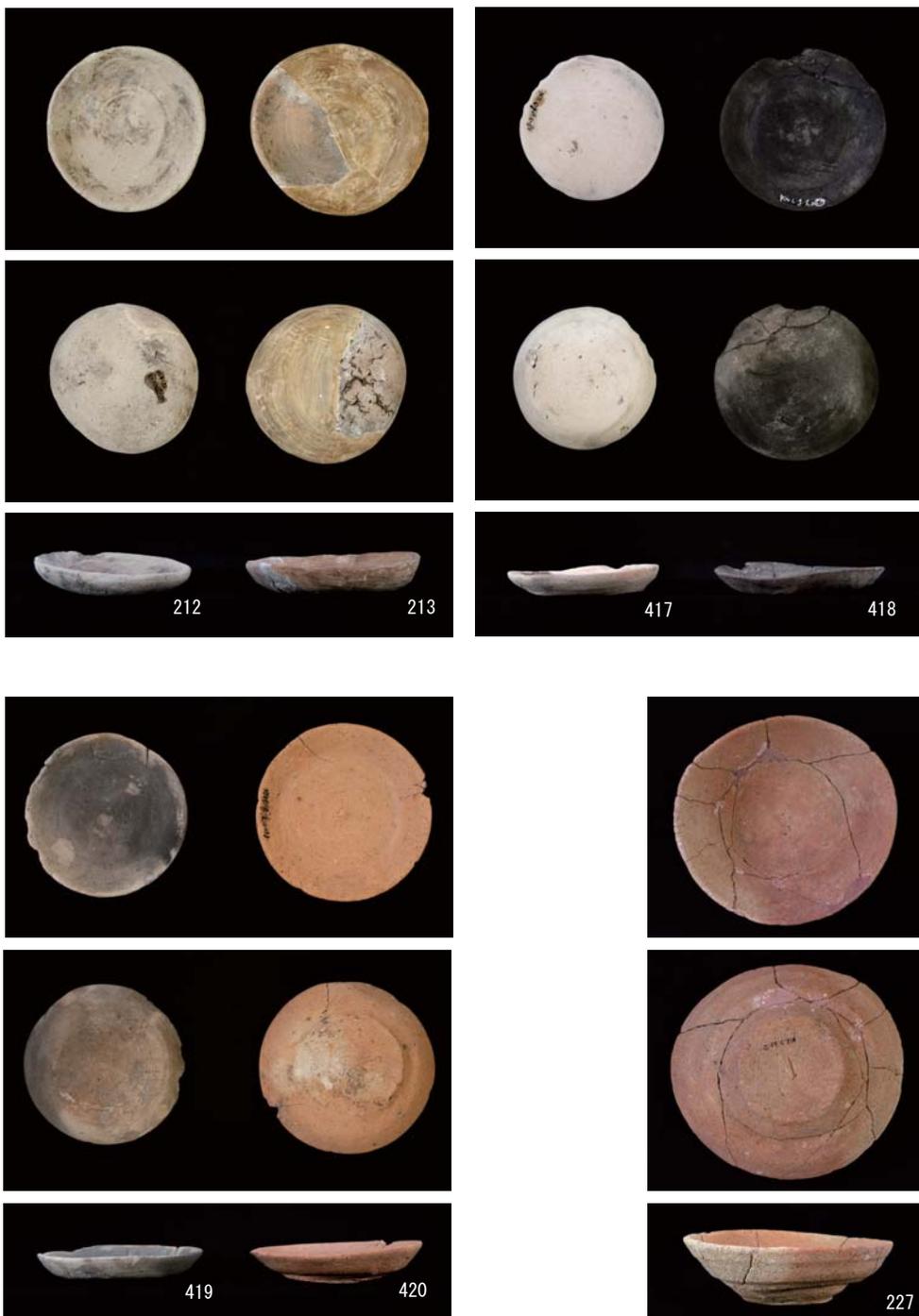
図版3 鏡西谷遺跡C地区(SB01)出土の土師質土器杯



図版4 鏡西谷跡C地区（S B 01）出土の土師質土器坏・皿

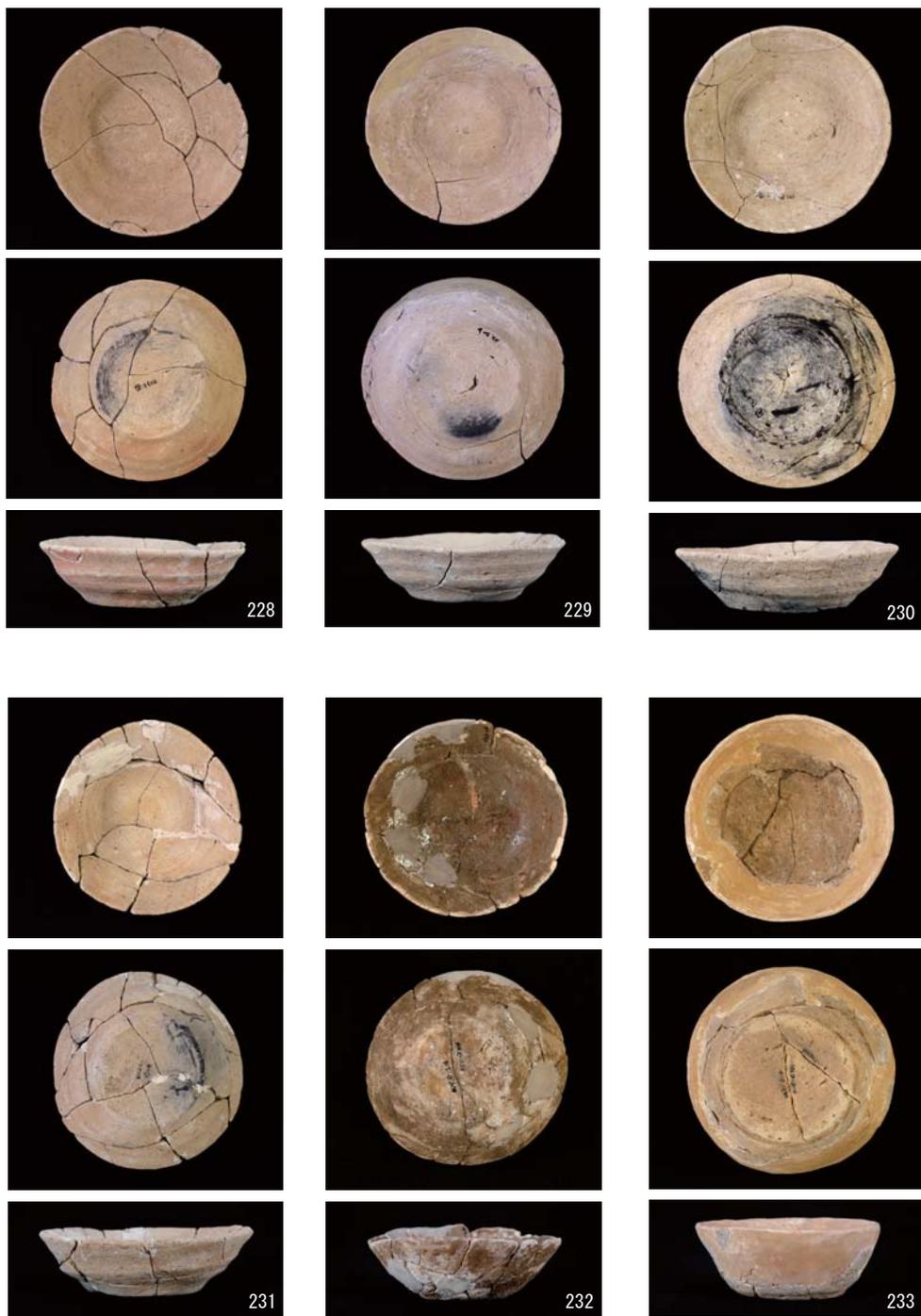


図版5 鏡西谷跡C地区（S B 01）・D地区出土の土師質土器皿・坏



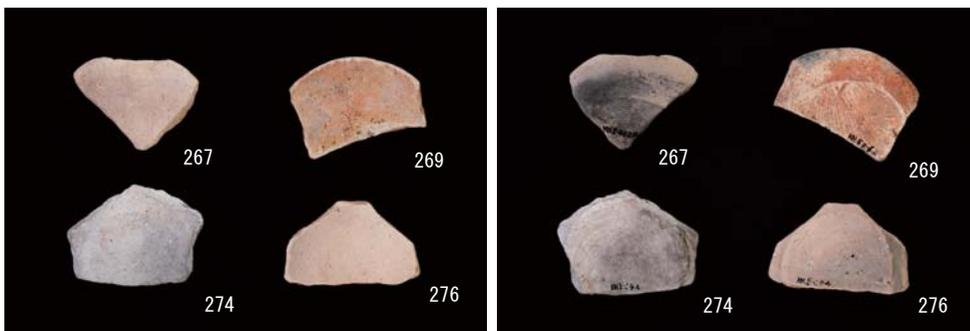
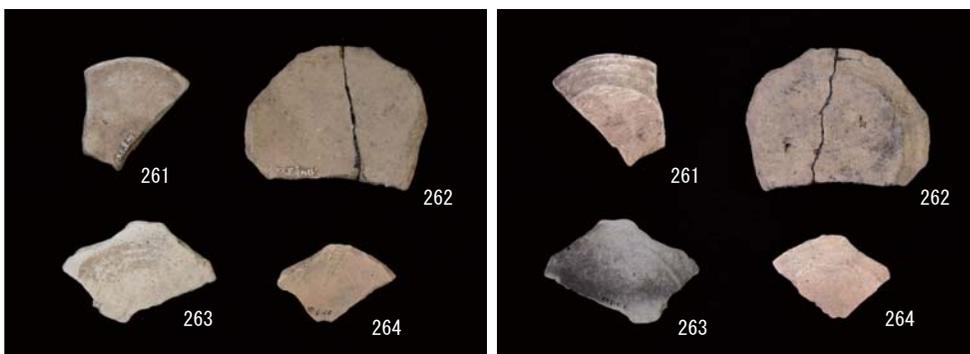
(212・213・417～420はC地区SB01、227はD地区S K06出土)

図版6 鏡西谷跡D地区出土の土師質土器坏

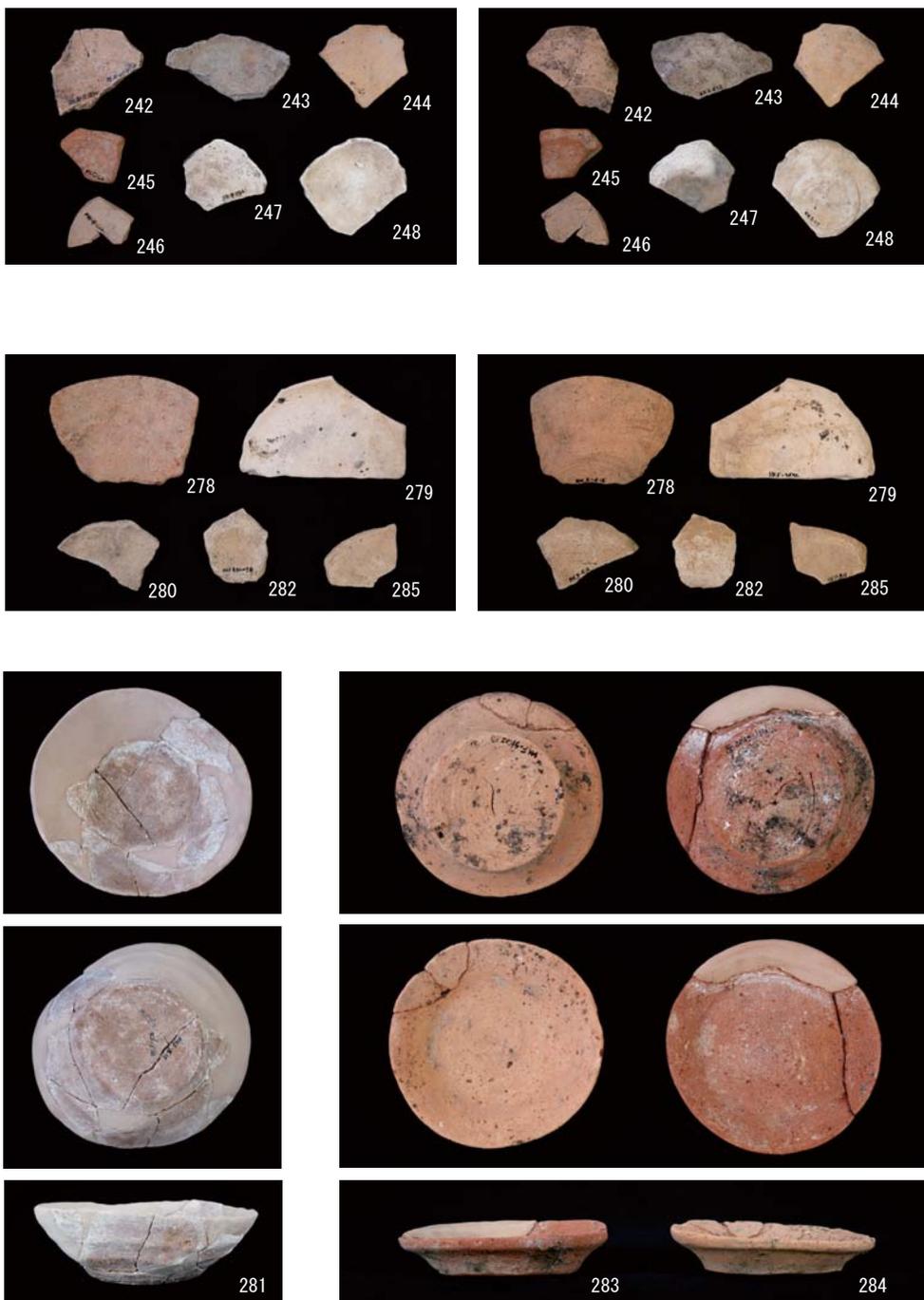


(226 ~ 231 は S K06、232・233 は S K07 出土)

図版7 鏡西谷跡E地区出土の土師質土器坏・皿



図版 8 鏡西谷跡 G 地区・F 地区出土の土師質土器 坏・皿

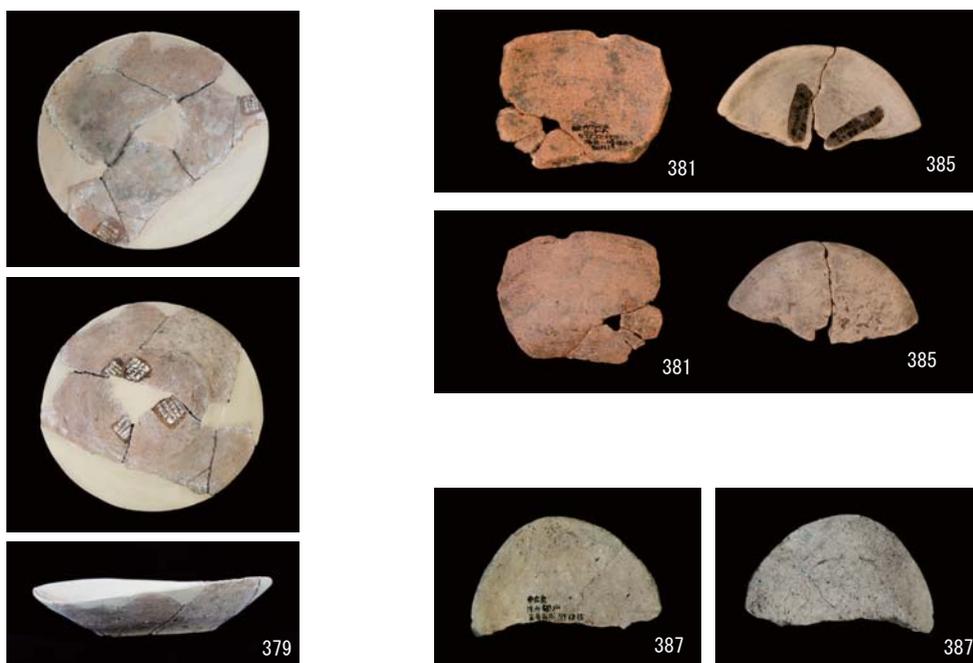


(242～248はG地区、278～280はF地区S B03、281はF地区S S 02、283・284はF地区S K 02、282はF地区S S 02周辺、285はF地区S B 03南東側斜面出土)

図版9 鏡西谷遺跡H地区、鏡遺跡群、清水奥山遺跡出土の土師質土器坏



(287・288・421 は鏡西谷遺跡H地区S A 01出土)



(379・381・385 は鏡遺跡群第7地点、387 は清水奥山遺跡出土)

図版 10 鏡東谷遺跡出土の土師質土器坏・皿



(北地区出土の土師質土器坏・皿である (ただし、333 は南地区出土)。294・307・308 は埋没谷、290・292・297 は東部、289 は西部出土。333 はS X 01・02 出土。)



(南地区出土の坏・皿である。317・329・334 はS X 01、309・311・322・340 はS X 01・02、323 はS X 05、316・324 はS X 07、314・318 はS X 06、315・341 はS X 04 南側斜面出土。)

図版 11 鏡千人塚跡（S K 15）出土の土師質土器杯



図版 12 鏡千人塚跡（S K 15）出土の土師質土器皿

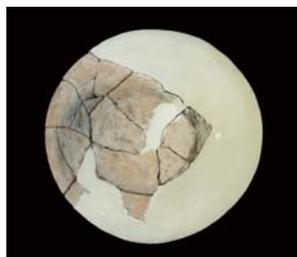


図版 13 鏡千人塚遺跡 (S K 15)・鏡山城跡ががら地区出土の土師質土器・皿



370

(鏡千人塚遺跡 S K 15 出土)



388

(鏡山城跡ががら地区 C 地区
第 1 郭 S A 01 出土)



389

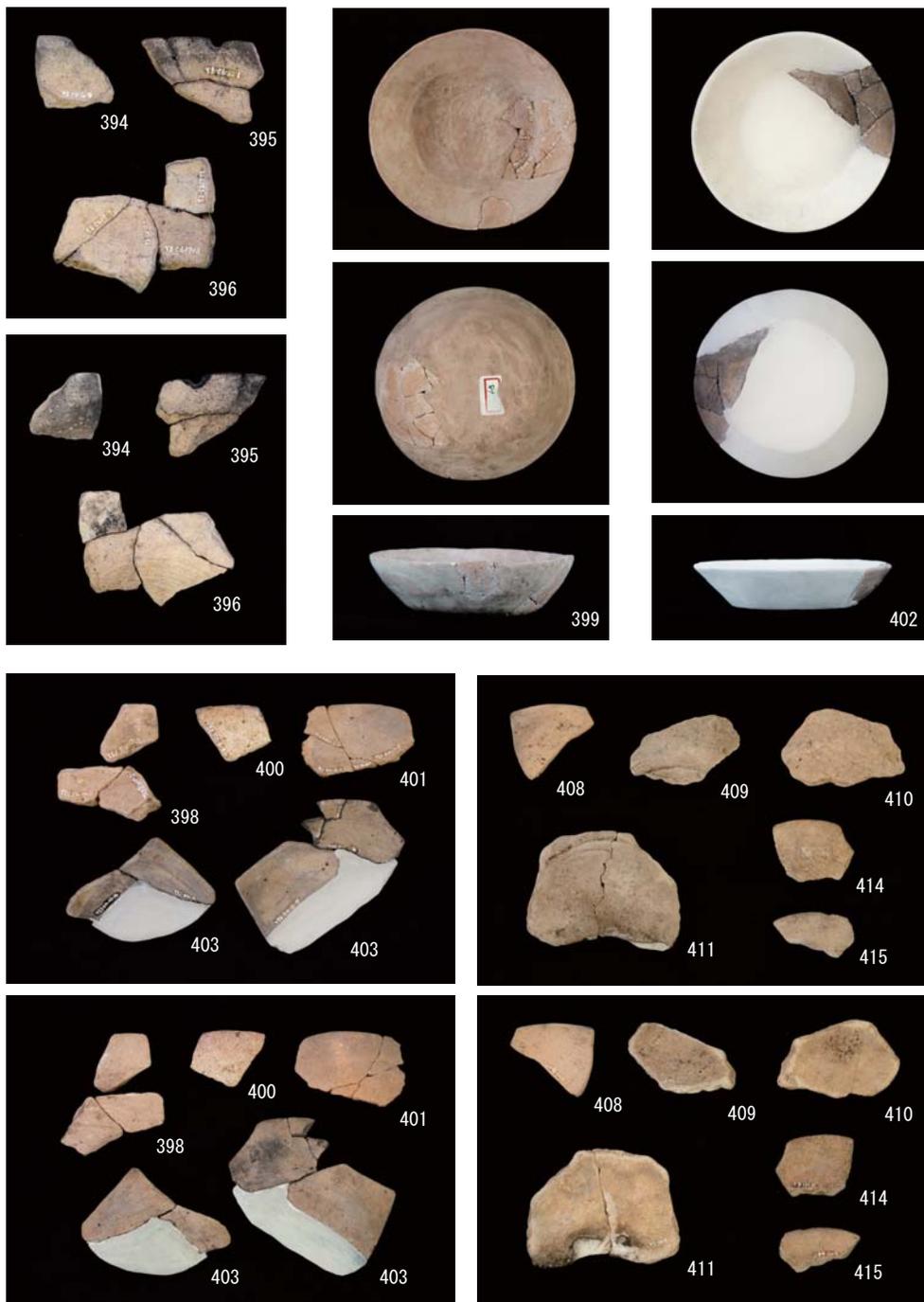


390

391

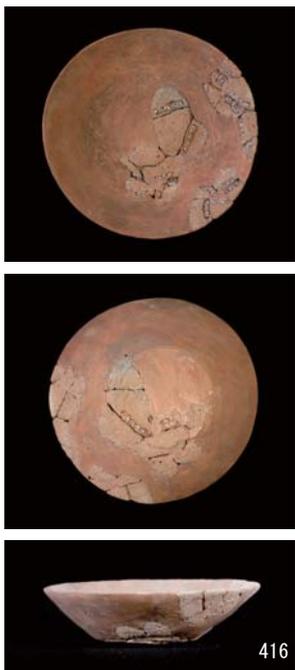
(389 ~ 391 は鏡山城跡ががら地区 C 地区第 1 郭 3 の段 S X 04 南側帯状平坦面出土)

図版 14 山中池南遺跡第1地点・第2地点出土の土師質土器杯・皿



(394～396は山中池南遺跡第1地点、398～403・408～411・414・415は山中池南遺跡第2地点、416山中池南第6地点出土)

図版 15 山中池南遺跡第 6 地点出土の土師質土器坏・皿



(山中池南遺跡第 6 地点出土)

付写真2 広島大学東広島キャンパス内出土土師質土器坏・皿の底部調整

例 言

1. 本写真図版は、『調査研究紀要』第5号研究編で扱った東広島キャンパス出土の土師質土器坏・皿に認められる底部調整の見本である。
2. 出土資料の底部外面は回転糸切による底部切り離しを基本とし、大半の資料でその痕跡を観察することができる。また、現状では明確にヘラ切による底部切り離しを確認できる資料はない。
3. 底部内面は回転ナデ調整を基本とする。例数は少ないが、棒状の工具を使用したと思われる渦巻調整、底部中央を中心とする拭き取りナデ調整を収録した。外面は回転糸切を施した後、ほとんど調整を加えていないものが大半であるが、回転ナデ調整、ナデ調整、板ナデ調整が認められる。典型的な資料を収録した。また、この他に底部外面に残された形跡として板目、ヘラ描き痕があり、収録した。
4. 本写真図版の写真撮影および図版作成は藤野次史が行った。
5. 本写真図版に収録した資料は広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門が保管している。

図版1 土師質土器杯・皿の底部調整



底部内面渦巻き調整



底部内面拭き取りナデ調整



底部外面回転ナデ調整



底部外面ナデ調整



底部外面板ナデ調整



底部外面板目



底部外面へラ描き (記号)

付写真3 広島大学東広島キャンパス内出土土師質土器坏・皿の色調

例 言

1. 本写真図版は、『調査研究紀要』第5号研究編で扱った東広島キャンパス出土土師質土器坏・皿の色調見本である。
2. 本稿では、出土土師質土器坏・皿の色調を赤系・白系・黒系・茶系の4種類に分類した。
3. 赤系は赤褐色を基本とするが、4つの色調の中ではもっとも色幅が広く、後述の茶系にやや近いものを含んでいる。もともとの胎土が赤く発色しているものであり、本来白い胎土の土器の表面を赤色塗彩しているものを含んでいる。白系は黄白色～黄褐色である。同一個体の内面および外面において、あるいは内面と外面で黄白色～黄褐色に変化しているものもある。黒系は暗褐色～茶褐色で、黒斑状のものもある。茶系は黄褐色を基本とする。白系に加えるべきなのかもしれないが、白系の土器と比べて黄色みが強い。鏡千人塚遺跡SK15出土資料を標準としており、資料的にまとまっている。
4. 本写真図版の写真撮影および図版作成は藤野次史が行った。
5. 本写真図版に収録した資料は広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門が保管している。

図版1 土師質土器杯・皿の色調と分類

